



卒園礼拝（年長児）
3/10月
説教 塩谷直也(大学宗教主任)

終業礼拝
3/13木

卒園式
3/14金

始業礼拝
4/ 8 火

入園式
4/11金

(教諭 多々内 三恵子)



初等部チャペルコンサート
15:40～16:30
2/27木 初等部米山記念礼拝堂
バンドベルクワイア、聖歌隊、トランペット隊

卒業礼拝（6年生のみ）
9:10～9:40
3/10月 初等部米山記念礼拝堂
説教 小澤 淳一(初等部宗教主任)

6年生を送る礼拝
9:25～9:50
3/14金 初等部米山記念礼拝堂
奨励 鈴木 祥子(初等部教諭)

フィリピン訪問プログラム
3/21金～27木
訪問先
バルン島、ネグロス島、バナイ島、ギマラス島

受難週特別祈禱会
4/14月～18金 8:00～8:15
初等部米山記念礼拝堂

イースター礼拝
8:25～8:50
4/22火 初等部米山記念礼拝堂

お母さんへの感謝の集い
11:00～12:00
5/14水 青山学院講堂

(宗教主任 小澤 淳一)



卒業礼拝
3/13木
講師 滝原 一泰
(日本基督教団高幡教会教諭、
青山学院高中部聖書科講師)

CF(クリスチャンフェロシopp)活動
4/ 7 月 校内清掃奉仕活動

春の教職員修養会
4/ 8 火 13:30～15:00
講師 三田 一郎
(カトリック終身助祭、名古屋大学元教授、
神奈川大学前教授 物理学専攻)

新入生オリエンテーションキャンプ
4/14月～16水

イースター礼拝
9:20～10:30
4/25金 青山学院講堂

母の日・家族への感謝の日礼拝
10:20～12:00
5/16金 青山学院講堂

(宗教主任 西田 恵一郎)



ペリニールホールと大学17号館
添える伝統と新たな挑戦

シリーズ **地の塩、世の光** **file 18** ◎ 各界で活躍するクリスチャン



わたしは世の終わりまで、
いつもあなたがたと共にいる

28:20 Matthew
マタイによる福音書 第28章20節

大野 寿子
一般財団法人メイク・ア・ウィッシュ オブジャパン
東京本部事務局長

手をつないで

私が働く、難病と闘う子どもの夢をかなえるお手伝いをするボランティア団体「メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン」はどの宗教団体にも属しませんが、クリスチャンである私は活動を通して、神様のメッセージを感じることがしばしばあります。その中から、清水美緒さん(13歳)のお話をしたいと思います。

美緒さんの夢は、自分で作ったお話、「いちばん大切なもの」の絵本を出版するというものでした。それは、6匹の動物たちの宝物探しのお話です。自分のことだけを考えて最初はバラバラだった6匹は、力を合わせて宝物の箱をついに見つけます。でも、中を開けると中身は空っぽ。そこで動物たちは、今日一日共に乗り越えた試練や音んだ友情こそが「宝物」であったと気づく、というストーリーです。

自分と同じように病気と闘う子どもたちにこの本を贈りたいと強く願った美緒さんは、専門の子ども病院や大学病院小児病棟の子どもたちに贈呈の葉を作ります。「つらいのはきみひとりだけじゃないよ みんなでいっしょにがんばっていきよう 手をつないで さあ みんなでけんこうそだてよう」というメッセージの下には、9人の子どもたちが笑いながら手をつないでいる絵が描かれています

The Salt of the Earth, The Light of the World



日本基督教団 桜新町教会

中村 真雄

初等部部长

「♪お魚くわえたドラ猫 追っかけて…♪」でおなじみの「サザエさん」。作者の長谷川町子さんが愛した町、桜新町。東急田園都市線の桜新町駅から徒歩8分。長谷川町子美術館を過ぎ国道246号を横断し角を曲がると日本基督教団桜新町教会があります。

初等部に奉職してしばらくの間、初等部で行われていた日曜学校のお手伝いをしていましたが、結婚を機に妻と教会生活に戻ると、家の近所の教会を訪ね歩いた中の一つが日本基督教団桜新町教会でした。とても青山学院の雰囲気になかったのが決めた理由でもありました(当時の川名牧師は、青山学院女子短期大学の非常勤講師でした)。

後で知ったことですが、桜新町教会は大変青山学院とは関わりがあり、設立にあたり教会に自らの土地建物を献げた工藤秀逸兄は、青山学院の教員であり、第4代牧師は、

青山学院名誉院長で現東洋英和女学院院長の深町正信先生のご父君である深町正勝牧師、1年間は無牧時代を支えていただいたのは、深町正信先生を始めとする多くの青山学院宗教主任の先生方でした。また、教員の中には、多くの卒業生もいらっしゃいます。

昨年の11月3日、桜新町教会は創立80周年を迎え、記念文集の発行

た。自分が高熱・下痢・嘔吐・痛みでもがいているという時に、会ったこともない子どもたちまでも励ます、その心に、私は打たれました。美緒さんがこの本の中で伝えたかったことは、「ひとりじゃないよ、手をつなぐ人がいることが宝物だよ」ということではないと思います。

私たちの歩みは拙いものです。どんなに丁寧に歩いているつもりでも、思わぬ出来事に遭遇します。心を尽したのにわかってもらえない、良かれと思ってやったことが裏目に出る、一生懸命努力してもつかめない、そんなつもりじゃなかったのに激しく人を傷つけてしまう、まさか私が、私の大事な人が大変な病気になるったり事故にあったり…。「なぜだけがこんな目に」と思ってしまうこともあるでしょう。でも、そんなときも、しっかりと手をつないでくださっている方がおられるのです。私がおの手を振りほどいても、なおしっかりと抱きかかえてくださる方がおいでになる。どんなに不出来で失敗を重ねた時でも、「大丈夫、私があなたと共にいる」と言ってくくださる方がおいでになる。そうして、この世界において、実際に手をつなぐ人をご用意してくださる方がおいでになる。その神様の、揺るぐことのない温かな手につながらるとき、困難を抱えたままでも、神様が配りてくださった隣人と共に手をつなぎ合って一歩を踏み出すことができるのだと思います。

英語で知るキリスト教

Easter Memories

Charles E. Robertson

大学 理工学部准教授



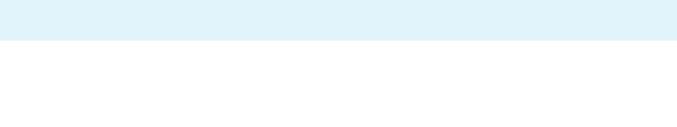
As I grew up in America, I understood from a young age how important Easter Sunday is for most families. My earliest memory of Easter (perhaps from when I was only five or six years old) includes waiting with other children for the "Easter egg hunt" to begin. An Easter egg hunt is a type of game in which children look for brightly colored hard-boiled eggs, and solid-chocolate eggs, that have been hidden outside.

When I was a young boy, on Easter Sunday, children were given Easter baskets in the church garden before the hunt began. The baskets were used to hold the eggs which the children collected during their search. There was always a lot of excitement before the Easter egg hunt began. I remember standing with my basket, waiting nervously¹, until someone said, "OK. Go!" Then, I ran with the other children around the garden and looked in the bushes² and trees for the hidden Easter eggs. The children screamed and shouted

- | | |
|-----------------|--------|
| 1, nervously | 緊張して |
| 2, bushes | 茂み |
| 3, early | 初期の |
| 4, represent | 象徴する |
| 5, tomb | 墓 |
| 6, reborn | 生まれ変わり |
| 7, Resurrection | 復活 |
| 8, fond | 温かい |
| 9, remind | 思い出す |

each time they found an Easter egg. Finally, after all of the hidden eggs had been discovered, the Easter egg hunt was finished. I can still remember that I always took my eggs home right away and proudly put them in the refrigerator. I also remember eating egg salad sandwiches for many, many days after Easter Sunday.

After I became older, I learned that many Christian cultures around the world celebrate Easter Sunday with eggs and Easter egg hunts. In fact, this tradition is very old. The early³ Christians used eggs at Easter to represent⁴ the tomb⁵ from which Christ escaped when he was reborn⁶. The day that Christ rose from the dead ("The Resurrection"⁷) was on a Sunday, so this is the reason Christians celebrate Christ's rebirth on a Sunday. In my childhood, Easter egg hunting on Easter Sunday was an important part of my church experience. I'm very happy to have such fond⁸ memories because they remind⁹ me of the true meaning of Easter Sunday.

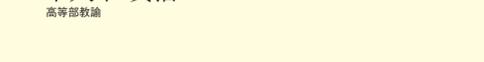


海外キリスト教事情

新羅国現代基督教事情

中久木 真治

高等部教諭



今を去ること7年前の2006年、私は学院からのお許しを頂いて韓国は慶尚北道、大邱広域市にある大邱韓医大学東洋哲学科博士課程に留学させて頂いていた。

留学の目的は、当然のことながら専門分野である日本の古典文学のうち、「論語」等の東洋思想を学び直すことにあったのだが、それと同時に私が非常に期待していたのは、韓国は極めて熱心なキリスト教の盛んな国であり、信仰が根付いている国で、そこに留学できるという事だった。なにもせ、国民の4人に1人がクリスチャンなのである(カトリック含む概算)。

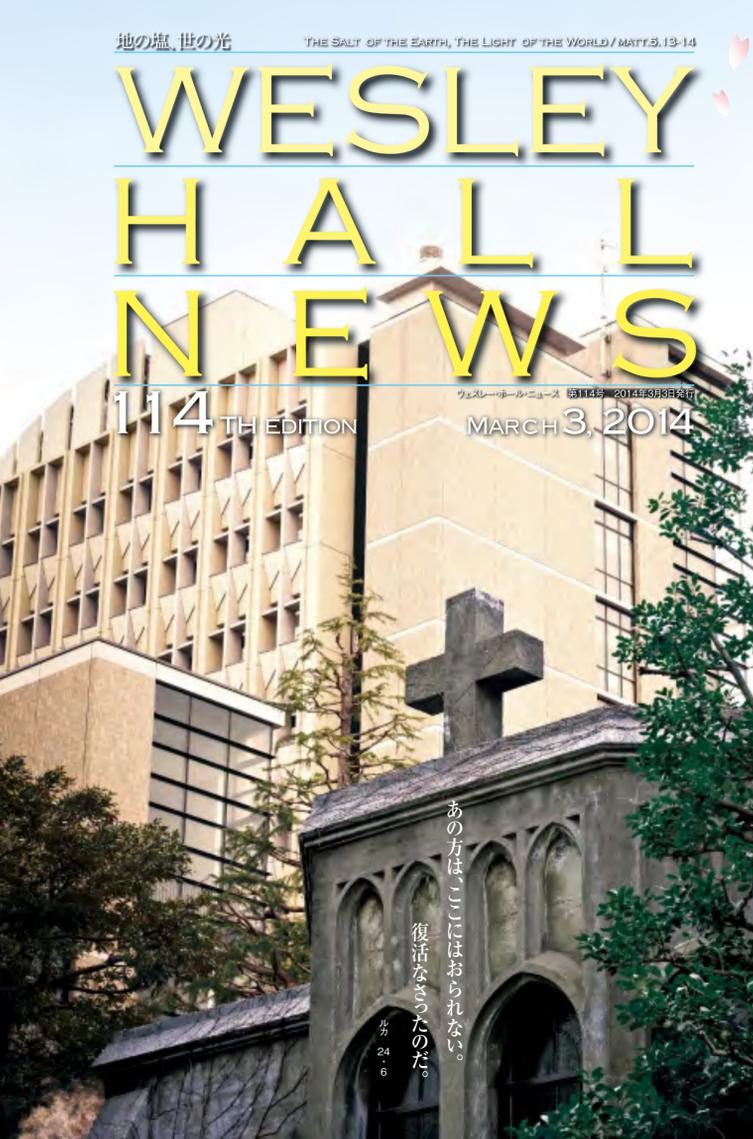
本当は青山学院のルーツでもあり、日本で私が所属している九段教会もそうなのでメソジスト系の教会に通いたかったのだが、大邱の辺りにはメソジスト教会が少ないということで(何でも最初の宣教師の上陸地によって、各会派で宣教の助手さんの紹介で徳修教会という長老派の教会に通わせて頂くことになった。

通える教会ができたのは嬉しかったが、ネイティブの方が普通に通っている現地の教会なので、礼拝は当然韓国語だけ。聖書もちろん韓国語、それも韓国語の古語である。日韓対訳聖書は持参して行ったが、全くと言っていいほど役に立たなかった。しかも、礼拝の後には必ず聖書輪読会があってそれに参加を求められた。その年にその輪読会で読んでいたのはなんと「民数記」! まさしく何が何やらちんぷんかんぷん

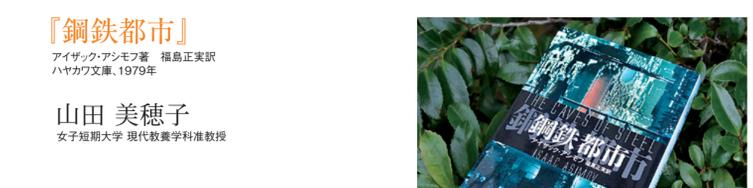
であった。

まあしかし、輪読会の後には午餐会となり、お昼が終わってからも特別な用事がない限り讚美歌練習をしたり教会員同士で敬談したりてほぼ半日を教会で過ごすのが通例であったが、私はその言葉も何もわからない半日が苦痛であるどころか、楽しくて仕方がなかった。それは教会員の皆さんがとても親切であるとか、お昼ご飯のピピムパプがとりわけ美味しかったという理由もあるが、一番は何といても教会に来る信者さんが、ごく自然に、本当に明るく楽しそうにしていた……という事に尽きる。

日本では、教会というのは、しかつめらしく真面目に礼拝を行い信仰を守るところ……というイメージがある。実際には明るく活気に溢れる教会も少なくはないが、やや物堅い印象を持たれて敷居が高かったりするのも事実だ。しかし、韓国の教会にはそういった特別な雰囲気はない。そう、信仰の全てが「日常」の生活と溶け合っているのである。「教会へ行く」ということには、ジーンズにスニーカーで出かけるようなカジュアルさがあるのだ。一方でその信仰は極めて求道的かつ熱心でもある。日常の生活の中にキリスト教のリズムが刻まれている。大変羨ましいことであるが、それは我々日本人のクリスチャンが、日本においても同様に目指さなければいけない地帯なのではないだろうか。帰国後日本の様々な教会に出席していて、ますますその感を強くしている今日この頃である。



CHRISTIANBOOKS & CDs シリーズ・キリスト教関連メディア紹介



「聖書とはなんですか?」……「地球のほぼ半分の人たちにとっての神聖な書物だ」

昨年冬、アンドロイド、つまり外見を人間に似せて造られたロボットの名をタイトルにしたテレビドラマが放映されたのを覚えている方もおいででしょう。ドラマの中とは違い、現実社会には一見して人間と見まごうような行動と思考力をつなごうロボットはまだ存在しません。それでもスーパーコンピュータと人間とのチェス試合や、コンピュータ将棋ソフトの結果が示すように、ほんの70年前にその萌芽をみた人工知能の性能は近年、各段に高められています。人工知能の研究は、そのまま人間らしさの解明につながるのと考えてよいでしょう。

では、ロボットと人間を分けているものとは、いったい何でしょうか? 現代のロボットの概念の生みの親であるSF作家、アイザック・アシモフはその代表作『鋼鉄都市』(1953)で、彼が考える「人間の条件」を著わっています。地球人の



刑事ライジー・ベイリと宇宙宙出スのロボット捜査官ダニールが互いに抱く違和感や憎悪に苦しみながら、宇宙人殺害事件の犯人を探すSFミステリであるこの作品には、旧約の預言者からとられた彼らの名前や、ベイリの妻の名ジェゼベル(イスラエルの王妃)など、初めから聖書からの響きが通奏低音として流れています。そして終盤近く、冒頭に挙げた聖書をめぐる対話が現れるのです。

犯人を推理するなかで、ベイリは「人間の思想、感情に大きく影響を与えている」ものとしての「聖書」を全然知らないダニールに「盗淫の女」(ヨハネ8:1-11)の挿話を引用して聞かせます。イエスが「罪ある女」に向かって、「わたしもあなたを咎めない。行けがよい、二度と罪を犯すな」と教しのことばを与えるこの語をダニールは注意深く聞きますが、罪を犯したのに罰されない状態を矛盾と考え、「慈悲として知ら

れる人間の衝動」にはなじめない、と言います。しかし最終場面で、罪をあばかれ死を覚悟する真犯人に対してダニールは「まるで自分の言葉に驚いたかのような唐突な調子で」こう言います。「行け、二度と罪を犯すな!」

結局この物語は、ロボットが「救す」という非論理な行為、「悪を破壊するのではなく、善へと転換させる」行為の意義を認めるまでの成長物語と理解できます。それはそのまま、人間の子どもの習い教わったおりの「正義」を超えて、ひとを救すことを覚えるまでのプロセスとも考えられましょう。自然な欲求としてひとの幸福をも願ひ、「どんな法律よりも一段高いところにある」規則があることに気がつく。そんな非論理と非能率の存在=人間になるために、キリスト教教育はあるのだと思います。



Wesley Hall News 第114号
2014年3月3日発行
発行 青山学院宗教センター 学院教務部長 嶋田 順好
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL:03-3409-6537(ダイヤルイン)
(URL)http://www.aoyamagakuin.jp/center/index.html
(E-mail)agcac@aoyamagakuin.jp
編集 オースレーンホールニュース編集委員会
印刷 株式会社 万全社

Easter Message

天地創造の神がなされること

コリントの信徒への手紙一 第15章

コリントの人々は、イエス・キリストの福音とイエスの復活に関して疑問を持っていました。使徒パウロは、その数年前の2回目の伝道旅行の時にこの教会を設立しましたので、「コリントの信徒への手紙一」と後に言われるようになった書簡を書き記します。パウロは、その中で福音の意味と復活について明確に説明しています。旧約聖書の中で預言されているように、キリストは私たちの罪のために死んで下さって、葬られ、そして聖書に書いてある通り3日目に復活したのである、とコリント15章でパウロは論じています。

特に「復活」は、コリントの人々にとって理解し難いことでしたので、パウロは復活したイエスを目撃した人々について述べています。死者の中からよみがえったイエスは、最初にケファ(ペテロ)と12人の弟子達に現れ、その後、合わせて約500人もの人々の前に現れました。したがって、使徒パウロがこの文書を書いている時に、復活し



シュー土戸 ポール
学院宣教師・大学宗教主任

たイエスを目撃した証人はまだ多勢生きています。もちろんパウロ本人も復活したイエスと出会い、人生が劇的に変えられました。パウロは、コリントの人々に新しい教えを紹介しているのではなく、よく知っていることを改めて述べているだけなのです。イエスの復活なしに、キリスト教の福音は意味をなさないので。

健全な疑い

しかし、前から説明されていることであっても、復活は理解し難い、受け入れ難いことです。このことに関して、古代の人々が現代の私たちと違ってだまされやすい、という訳ではないのです。2000年という年月が経っても、復活に関する常識は変わりません。人間も動物も死者の中から復活することはありません。死は一方通行の門です。いったんその門を通ったら、戻ることは決してありません。コリントの人々は、イエス・キリストの復活だけではなく、人間の死後に関する疑問がありました。肉体的体が滅んだ後に魂の復活はあるのか、それとも、死者の復活もなく、来世

もなく、死が終わりののか。コリントの人々は、様々なことを考え、疑いを持っていました。

コリントの教会の人々は、健全な疑いを持っていたと言えるでしょう。イエスを信じる全ての人々は、この疑問を受けとめ、よく考えなければなりません。イエスの最初の弟子たちもそうでした。弟子たちは、イエスの復活を前から期待していた訳ではありません。もちろん、イエス本人は復活について話しましたが、イエスが十字架で殺されて遺体が葬られた時、弟子達はイエスが実際に復活するとは考えていませんでした。弟子たちにとって、3日後の復活は、信じられないジョッキングな出来事であったと4つの福音書に記されています。弟子たちも健全な疑いをもっていたのです。

奇跡の論理性

聖書に記されている超自然的出来事の大前提は、自然法則と言われる宇宙の組織的秩序です。世界の創造の時から、物質世界はランダムで動いている訳ではなく、超自然的な力によって動かされている訳でもないのです。神がお造りにな

った、組織的秩序である自然法則によって動いているという大前提があるのです。しかし、この世界とその秩序をお造りになった創造の神は、その秩序を超える存在として、例外的にこの世界で超自然的出来事を行うこともできるのです。これが聖書に記されている奇跡なのです。

奇跡があり得るのかあり得ないのか、ということは創造の神にかかっています。宇宙のビッグバン(Big Bang)を引き起こし、宇宙のエネルギーと物質、そして秩序そのものをお造りになる神が存在するののか?天地万物の創造の神が存在するのであれば、必然的にその方は超自然的出来事を行うこともできるのではないのでしょうか。聖書によると、今もおその方は世界で働いておられます。宇宙とその中の全てのものや生命を存在させるほどの力と能力があれば、一人の人間を復活させることは簡単でしょう。創造の神を信じることであれば、復活を信じることもできます。

復活の力

イエスの弟子たちと500人以上の人々は復活

したイエスと直接会って信じましたが、復活した40日後にイエスは天に昇られ、世の終わりまでそのような形では現れません。したがって、コリントの人々は直接イエスの姿を見ることはできません。それでも、イエスの復活はコリントの人々を始め、世界の多くの人々に命と希望を与えています。復活の観点から自分と世界とを見ることが出来れば、人間は変わります。神の愛とめぐみを受け入れられるようになります。思いやりが湧きます。恐れと不安が解けていきます。より寛大な心が育ちます。

コリントの信徒への手紙一第15章の最後の方で、使徒パウロはこう書きました。「この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、次のように書かれている言葉が実現するのです。『死は勝利にのみ込まれた。』」2000年が経っても、イエスの復活には意味があります。神の愛と力は、今もお人々の人生を変えています。私たちは今もおその復活の力と神の愛を味わうことが出来るのです。

特集 未来への一歩、卒業

思い出がいっぱいの学院生活も、あとわずか。次のステージに向けて新しい一歩を踏み出す思いを、各部の方にききました。

Special Issue : One step to a future ; Graduate

御言葉を聞いて悟る人となりますように

白石 千嘉子
幼稚園保護者会会長



「子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げはならない。天の国はこのような者たちのものである。」(マタイ19:14)
年少の頃は「かみさま、かみさんがとおいにくるようにしてください」と、雷の鳴る晩に何度もお祈りしていました。年中になると「たねをまいたのにとりがたべちゃったの、いしだらけのみちではかれちゃうし、いばらのなかではそだたなかった。」と、その日に聞いた聖書のお話を絵に描いて話してくれました。年長では、絵本の聖書の物語を借りて読むことを楽しみにしていました。
幼稚園の3年間の生活のなかで、神様が子どもたちと共にいらしてくださったことに心から感謝しております。子どもたちは聖書のお話を聞き、日々賛美し、お祈りすることで神様を身近に感じ、その存在を理解して参りました。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」(ヨハネ3:16)。神様からの愛、先生方からの愛を受け、愛されることを知り、まわりのものすべての信頼を育んだ幼稚園での毎日は子どもたちにとってかけがえのないものであり、このような計り知れない贈り物をいただいた喜びを改めて感じています。
子どもたちは、四季折々の思ひのなかで伸び伸びと遊びに没頭し、お友だちとときにはぶつかり合いながらも絆を深め、常に変わるような温かい眼差しで育ててくださる先生方に安堵しながら過ごした幼稚園の日々を一生の宝物とするでしょう。初等部に通う長男が幼稚園に通っていたときに「胡瓜の種を蒔いたなら、どんなにトマトになって育ててもトマトにはならない。」というお話を聞きました。幼稚園の生活のなかで神様から与えられた御言葉が一人一人の中で育ち、大きく実を結んでいくことを祈っております。本当に有難うございました。

やさしさを教えてくれた六年生

川本 紫恩
初等部3年



6年生のみなさん、ごつぎようおめでとうございます。私が6年生との思い出で一番心に残っていることは、女子スポーツクラブの合宿です。バトンの回し方やステップやダンスのふりつけなどを出るようになるまで親切に教えてくださいました。そのおかげで運動会では、きん張りましたが、バトンを落とすこともなく上手に回すことができました。
雪の学校のメンバーで食堂給食をいただいた時には、知らない6年生がやさしく話しかけてくださったり、こまっていた時「どうしたの?」と助けてくださったりすることがありました。
みなさんにしていただいたことを忘れず、三年後には私も思いやりを大切にして、やさしくできな六年生になりたいです。
初等部での思い出を心の宝物に、中学生になってもがんばってください。

早野 慶
初等部6年



僕は1年生の頃から今までほぼ毎週教会に通っている。「ひかりかり」「そののどり」等の讃美歌を歌う事が好きだからだ。でも一年生の頃は長い礼拝のお話がわからずいたくつだった。でもとめの時教師先生が言っている言葉はいつも耳に残る。「いつも神様がそばにいて下さいます。」「神様にできない事はありません。」等だ。初めは「本当かなあ」と思った。でも今までつらい事があったけれど、乗り越えられたのは「神様」のおかげだと気付く。「どんな時も神様がそばにいてくださったんだ」と思った。それから何かあった時にお祈りしたり、「神様ありがとうございます。」等と言っている。悲しい事があってもぜんぜん怖くない。だからこの6年間で知ったし聞いたしつたみ言葉をこれから思い出してずっと生かして生活したい。

貴重な三年間

林 由梨
中等部3年



中等部祭で吹奏楽の演奏を聴いた私は、すっかり虜になり吹奏楽部に入りたい一心でこの学校への入学を目指して勉強した。念願叶って望みどおりの入学、入部を果たしてサクソを運んだの練習が始まった。初めはかなりの努力を要したが、思いのほかに早く吹けるようになった。入部当初からひよこ達に優しく接してくれた上級生のおかげでほぼ毎日の練習も苦にならず、楽しく参加することができた。多くの部活の友人、クラスメイトと交わりながら新しい環境にもすぐに馴染んで快適な中等部生活を送ることができたのは、青学の持つ穏やかな校風のおかげだと思う。違った人格の集まる場所に「和」が保たれるということは簡単なことではない。新参者を容易に受け入れてくれるこの雰囲気はここで育まれるのかと考えたとき、それはこの学校特有の教育によるものだと感じた。毎日の礼拝で聖句に触れ、説教を聴くことが人間形成に大きく影響していると思う。「和」には、まずお互いを思いやる気持ち、つまり相手の人格を認めてそれを重んじ、ありのままを受け入れることから始まる。ここには愛の働きがなければ成り立たない。
入学と同時に手にした聖書と礼拝で学んだことは、キリスト教は「愛の宗教」であるということ。その根幹には「イエスの死と復活」がある。この神の業はまさに人類への神の愛の極みである。これほどの愛を受けている私たちは、神の愛に応える生き方をする義務があるのではないだろうか。とすれば申命記に答えがある。「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」(申命記6:5)。ではどのようにすればこれを実践できるのか。主イエスの教えによると「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ13:34)である。中学で学んだ貴重な教えを高校まで大切に持っていきたい。

世界中の隣人を愛する

稲川 翔
高等部3年



高等部の3年間はあっという間でしたが、その短い間に私は様々なことを経験しました。授業、クラス行事、部活、委員会、生徒会などで経験したことは、私の考え方に大きな影響を及ぼしました。初めはかなりの努力を要しましたが、思いのほかに早く吹けるようになった。入部当初からひよこ達に優しく接してくれた上級生のおかげでほぼ毎日の練習も苦にならず、楽しく参加することができた。多くの部活の友人、クラスメイトと交わりながら新しい環境にもすぐに馴染んで快適な中等部生活を送ることができたのは、青学の持つ穏やかな校風のおかげだと思う。違った人格の集まる場所に「和」が保たれるということは簡単なことではない。新参者を容易に受け入れてくれるこの雰囲気はここで育まれるのかと考えたとき、それはこの学校特有の教育によるものだと感じた。毎日の礼拝で聖句に触れ、説教を聴くことが人間形成に大きく影響していると思う。「和」には、まずお互いを思いやる気持ち、つまり相手の人格を認めてそれを重んじ、ありのままを受け入れることから始まる。ここには愛の働きがなければ成り立たない。
入学と同時に手にした聖書と礼拝で学んだことは、キリスト教は「愛の宗教」であるということ。その根幹には「イエスの死と復活」がある。この神の業はまさに人類への神の愛の極みである。これほどの愛を受けている私たちは、神の愛に応える生き方をする義務があるのではないだろうか。とすれば申命記に答えがある。「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」(申命記6:5)。ではどのようにすればこれを実践できるのか。主イエスの教えによると「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ13:34)である。中学で学んだ貴重な教えを高校まで大切に持っていきたい。

卒業にあたり

松下 結実
女子短期大学 子ども学科3年



私はこの春、青山学院女子短期大学を卒業しました。私にとって、この学校での3年間の歩みは、想像以上の多くの恵みと喜びがあり、苦しみと試練がありました。様々な経験を得、宝物の3年間となりました。卒業にあたり、私の3年間の歩みを分かち合いたいと思います。
エフェソの信徒への手紙5章8〜10節「光の子として歩みなさい。―光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。―何が主に喜ばれるかを吟味しなさい。」
私が去年に引き続き今年の年間目標にした聖句です。私がこの学校に導かれたことも神様のご計画の上だと考えています。この学校で与えられた学びや経験が、主に導かれたものと信じ、また主に喜ばれるものになりたいとこの聖句にしました。
この学校で多くの出会いや学びがあり、私の生活を充実したものとできていました。学科での学びを通し、また実習などで経験を重ねるごとに自信が生まれ、それと同時に不安も大きくなりました。一人人間として、社会人としてのルールや考え方も学びを通し教えられました。またそれらを分かち合う仲間に出会い、共に喜び共に悲しむの優しさに触れ、人間的に成長することもできました。多くの人に支えられ、この3年間が充実した時間と出会いました。共にも感謝しています。入学し学科での最初の授業で、「自分自身を知ることは大切です。まず大人にならなよう」と先生が語られたことは今でも忘れられません。自分が何者なのか、何になりたいたのか、何をすべきなのか、私とは…と何気ない問いですが、今まで考えたこともありませんでした。自分と向き合うことは、これからの自分に繋がると思います。この3年間を経て、次なる自分へと向き合っていくたいです。

すべてに感謝

山田 裕介
専門職大学院 国際マネジメント研究科2年



「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」(1 テサロニケ 5:16-18)
日頃、毎日のニュースや新聞、そして街や電車の中からも、「我々は、21世紀を生きる子どもたちに、家庭の中で人とつながり合って生きるモデルになる責任がある」と思わされています。
2012年4月、私は青山学院大学大学院国際マネジメント研究科に入学しました。社会人となって10年を過ぎ、経営を更に体系的に学びたいと思い、家族と相談し入学を決意しました。仕事と学びとの両立の中で当時娘も小さかったので、家族と過ごす時間も大事であると考えていました。しかしながら私自身も両立というプレッシャーから、休みの日も家族と過ごす中であったも仕事と勉強の事を常に考えていました。そんなある日、子どもと遊んでいても、どこか気が持たない時に、「ふっ」と我に返り子供の顔を見る。娘はじっと私の顔を見つめて、話す言葉に耳を傾けています。どんな状況であったとしても、今を大事にしなければいけないと強く感じました。私は、子どもから信頼されていることに感謝し、大人としての生き方と言葉の責任の重さを覚えました。
非の打ち所が無い、立派な大人(親)にならなければいけないということではないと思います。自分の弱さを認識しつつ、周りの人に上手に助けってもらいながら、常に前に進んで喜んで生きる誠実な親の姿から、子が学ぶものは大きいと思います。
大学院では、ほとんど皆が仕事やそれぞれの家庭をもっており、そういった学友の姿や価値観から私は学びを受けました。
この2年間で学んだフレームワークや理論は数多くあり、かけがえのない刺激的な学友にも恵まれました。また、大学院への進学を応援していただいた会社と、家族への感謝、この大学院での生活全てに感謝します。

宗教センターだよ

高等部より

卒業礼拝
3/6 木 高等部PS講堂
お話し 池田 敏(高等部教諭)

イースター礼拝
4/21 月 高等部PS講堂
説教 小泉 健(東京神学大学准教授)

(宗教主任 相良 昌彦)

女子短大より

卒業礼拝

3/19 水 13:30~14:30
青山学院講堂
説教 シェロ マイク(学院宣教師)

宗教活動委員会
オリエンテーションキャンプ
3/28 金, 29 土

キリスト教学校教育同盟校
推薦入学生他歓迎会

4/2 水 女子短期大学礼拝堂 他
始業礼拝

4/3 木 10:00~11:00
青山学院講堂
説教 吉岡 康子(女子短期大学宗教主任)

イースター礼拝
4/21 月 女子短期大学礼拝堂
チャペル・ウィーク

5/12 水, 14 木, 16 金
(女子短期大学宗教活動センター)

大学より

卒業礼拝

オーストラリア・
クリスチャンファミリー・
ホームステイ・プログラム
2/7 金 3/1 土

青山学院創立140周年記念
大学聖歌隊英国公演
3/1 火 11 水

オックスフォード大学・ケンブリッジ大学
大学宗教委員研修会
「海外のキリスト教大学」
3/5 水 10:00~15:00
第16会議室(総研ビル9階)

フィリピン訪問プログラム
3/11 火 20 木

卒業礼拝
3/25 火 9:00~
カウチャー記念礼拝堂

卒業記念パイオルガンコンサート
3/25 火 12:10~ 14:45~
カウチャー記念礼拝堂
(相模原 ウェスレー・チャペル)

キリスト教推薦入学生
オリエンテーション
4/1 火 9:00~
カウチャー記念礼拝堂他

キリスト教概論 I
オリエンテーション
4/2 水 4 金 カウチャー記念
礼拝堂他

新入生歓迎礼拝
4/7 月 11 金
(青 山) カウチャー記念礼拝堂
(相模原) ウェスレー・チャペル

チャペル・ウィーク
5/26 月 30 金
(青 山) カウチャー記念礼拝堂
(相模原) ウェスレー・チャペル

宗教科センターグループ活動
いずれの集も自由に参加できます。
わがかりやすく、楽しく聖書が学べます。
(宗教主任担当)

キリスト教文化に親しむ会
文学、自然科学、社会問題、音楽
などをキリスト教信仰との関わり
において語り合い、考え合います。
(宗教委員、クリスチャン・教員と
宗教主任担当)

(宗教センター事務局 平野 修一)

本部より

教職員新年年度礼拝
4/4 金 17:00~
カウチャー記念礼拝堂

(宗教センター事務局 平野 修一)